

第3回飯田市安全大会 事例発表

～わが家の結いタイム みんなで話そうスイッチを切って～

丸山小学校 ^{こうの}高野正延

1 「スイッチを切る」とは

昨年11月のPTA講演会で、清川輝基氏をお呼びし「子どもが危ない！メディア漬けが子どもを蝕む」というテーマで講演してもらい、この講演を契機にして、PTAと連携して「スイッチを切る」という活動を始めた。

この活動は、家庭でテレビやゲーム等のスイッチを切る時間を設けることにより、生活のリズムを大切に、家族との会話や読書、友だちとの遊びの時間を増やし、周囲との人間関係を深めるとともに心の安定と学習意欲の向上をめざそうとするものである。

昨年10月に本校で行った「生活についてのアンケート」によれば、特に高学年のテレビ・ビデオ・ゲームの時間の長いことが明らかになった。6年生においては、普通日でもほぼ半数の児童が3時間以上テレビやビデオ、ゲームにふれており、4時間以上という児童も25%いるという結果だった。また、全校のほぼ3分の1の家庭では、テレビやゲームなどの約束を決めてないという状況も示された。

こうしたメディアとのかかわりは、就寝時刻を遅くするだけでなく、生活のリズムや家庭学習の時間の確保、家庭での団らん、学校での授業への取り組みや人間関係などに、少なからず影響を与えている。そこで、本校では「スイッチを切る」という活動をPTAと連携して始めた。

2 具体的にはどのような取り組みをするのか

- (1) 各家庭で実施が可能な時間を設けて、テレビやビデオ、ゲーム、パソコンなどのスイッチを切り、家族や自分の時間をつくるようにする。
- (2) 家族で相談して、みんなが協力でき実施可能な約束を決める。
(例) ・食事中はテレビを消す。 ・夜 時以降はテレビやゲームを消す。
・テレビやゲームは1日 時間までとする。 ・ 曜日は1日テレビを見ない。
・ゲームは土、日だけにする。 など
- (3) 取り組んだようすを記録に残し、家庭や学校で振り返る資料にする。

3 20年度の取り組みの様子

20年度は、12月、1月、2月の3回、「スイッチを切る」チャレンジャーとして、希望者を募りこの活動に取り組んできた。飯田市教委で立ち上げている、家族のふれあいのためのわが家の「結いタイム」と関連させ、「結いの日」(その月の第3日曜日、いわゆる家庭の日)に合わせ、取り組むようにした。

1回目の12月は、17人のチャレンジだったが、第2回183人、第3回191人と取り組む児童が増え、次第に、テレビやゲームのスイッチを切り、家族の時間を大事にしようという雰囲気広がりを見せ始めた。

(1) チャレンジした児童や保護者の感想から

以下、チャレンジした児童や保護者の感想である。

「テレビがついていないときのほうが、家族と話ができた。」(2年女兒)や「テレビが消えていることで、家族の会話が増えました。笑いもいっぱいありました。」(保護者)など、家族のふれあいが増えたことに関する感想があった。

「だらだらとテレビを見ないように、きちんと時間を決めて見るほうがいいと思った。」(1年

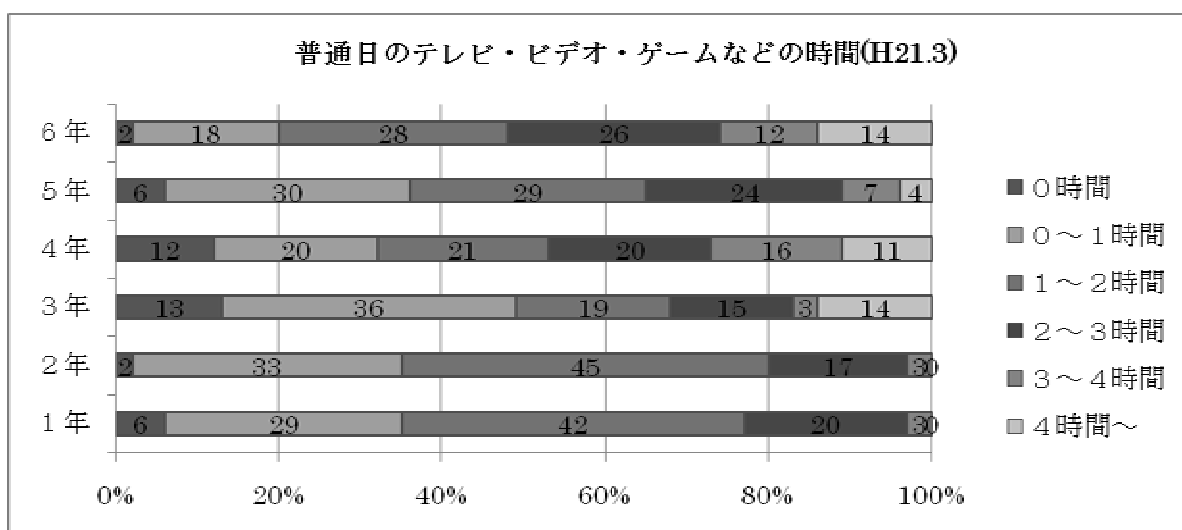
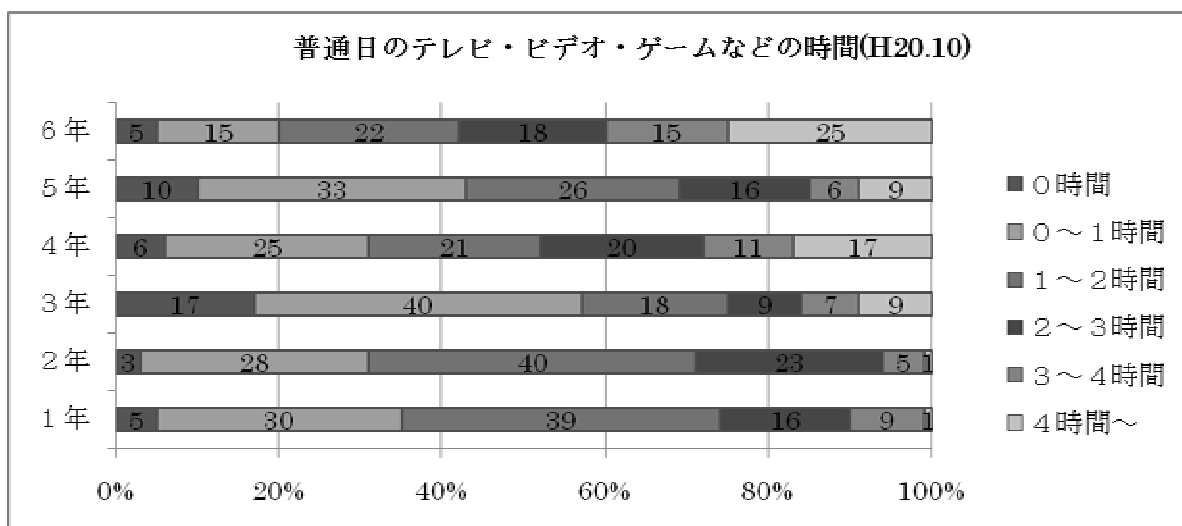
男児)や「いつもただらとテレビをつけていることが、分かってよかったです。」(保護者)のように、見たいというわけではないのに何となくテレビをつけて過ごしていることに対する反省もあった。

中には、「テレビ番組に入浴時間を合わせていたことが、まるでうそのようです。自分たちのペースで過ごすことができました。」(保護者)や「気づいたことは、会話の内容が、テレビから話題を見つけていたことでした。」(保護者)のように、知らず知らずのうちに自分たちがテレビに生活を合わせ、自分たちの生活がテレビによってコントロールされていたのではないかという内容の気づきもあった。

(2) 児童の生活状況についてのアンケート結果(取り組み前と取り組み後)の比較から

アンケートには、15項目ほどの質問が用意されていたが、ここでは、テレビやゲームに関するいくつかについて述べてみたい。

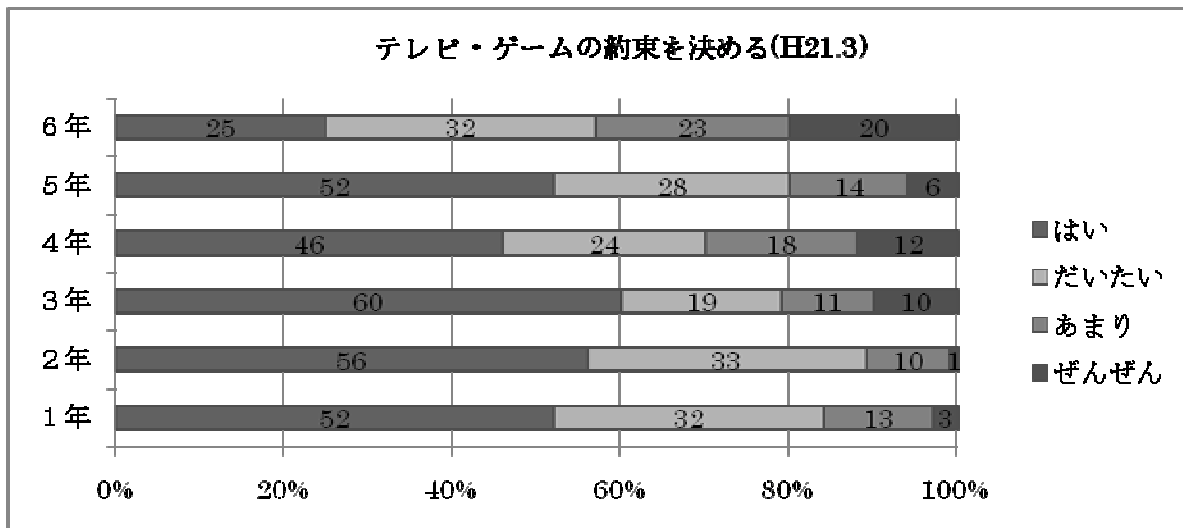
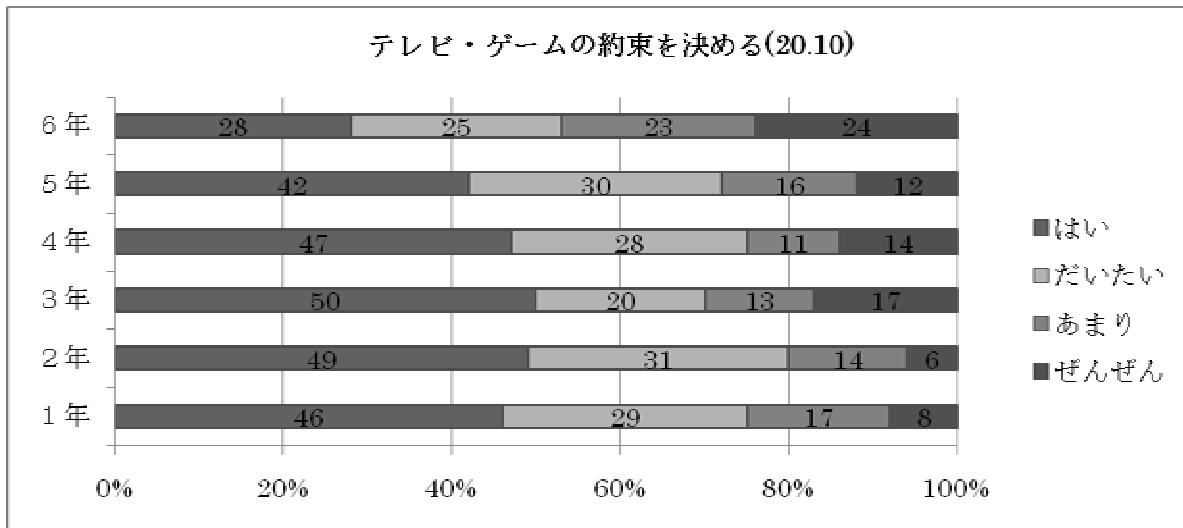
ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲームをふくみます)やインターネット、ケイタイをしたりしますか。



普通日のテレビやビデオ、ゲームなどの時間について、特に3時間以上という児童を見てみると、6年が40%から26%に減少するなど、高学年と低学年において減少している。

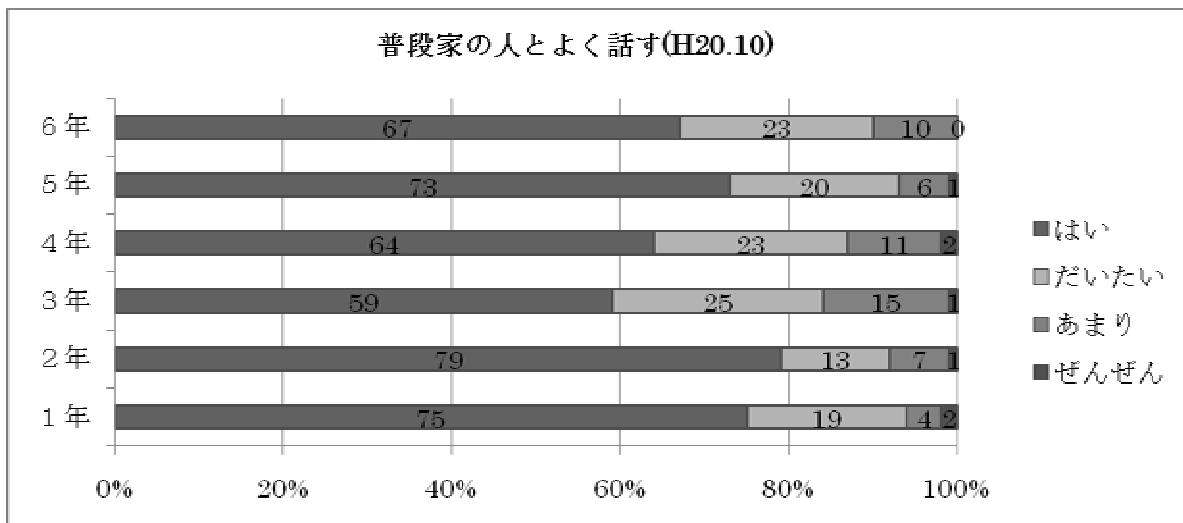
一方で、中学年においては、4年生で4時間以上は減少したものの、大きな変化が見られず、テレビやゲームの時間が長い傾向は、中学年頃から始まっていると言える。

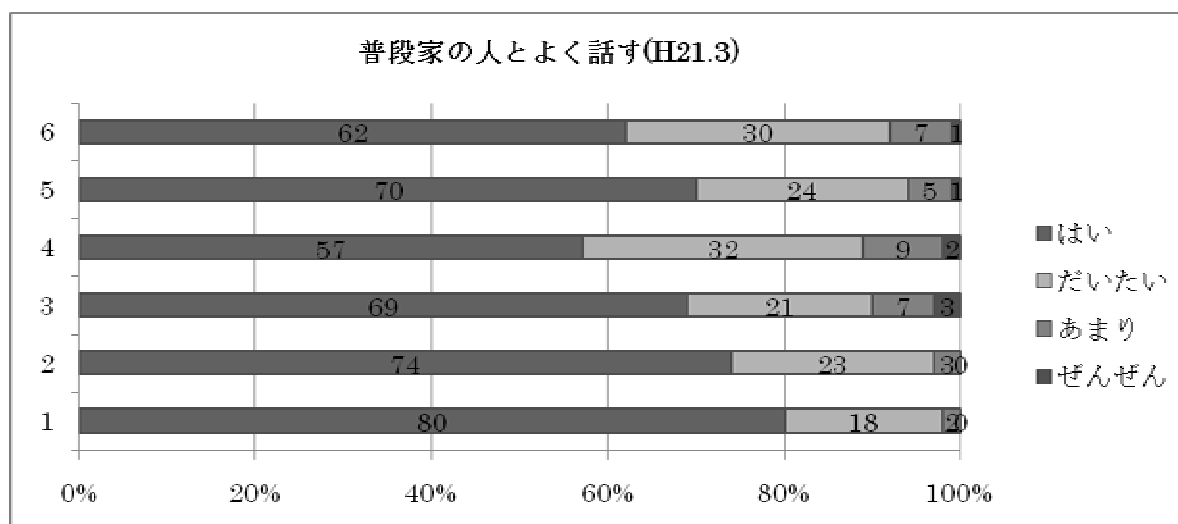
テレビやゲームなどについて、家の人（寮の人）と約束を決めていますか。



テレビやゲームの約束については、「はい」と「だいたい」と答えた児童が、4年生を除いて3月の方が増えていることが分かる。チャレンジを通して、「スイッチを切る」への関心が少しずつ高まってきていると言えそうである。

ふだんから、家の人（寮の先生）とよく話していますか。





普段家の人とよく話すについては、「はい」と「だいたい」について見ると、どの学年もわずかずつつではあるが、全体的にグラフが右に寄っていることが分かる。

さらに、児童や保護者からは、次のような感想がたくさん寄せられている。

- ・ごはんを食べているときに、テレビを見ないと、ママとパパと話せるからよかった。(2年)
- ・テレビのスイッチを切ってご飯を食べると、自然と家族で話す時間が長くなりました。(4年)
- ・家族でたくさん話ができ良かったです。テレビをやめると、家の中が静かになりました。(6年)
- ・ご飯中にテレビを消すだけでも、家族との会話が増えました。祖父母も一緒に食事をするので、協力してもらいました。(保護者)
- ・子どもとテーブルを囲んでいろいろな話をしたり、作業をしたり、勉強をしたりと、ゆったりとしたいい時間を過ごせました。(保護者)
- ・学校での出来事、お友だちのこと、今考えていることなどを話題にして会話ができ、テレビがなくても物足りなさを感じなくなりました。(保護者)

アンケートの結果と児童や保護者の感想とを関連して考えてみると、「スイッチを切る」取り組みを始めたことにより、テレビやゲームのスイッチを切ったことで、家族との会話が増えたということができよう。

4 今までの取り組みから見えてきたこと

昨年の感想の中に、来年もこのチャレンジを続けてほしいという希望がたくさんあり、今年度もこの取り組みを続けてきている。

最近では、次のような保護者の感想も見られるようになった。

- ・親も子ども向き合う時間を増やすことが、大切だと感じました。
- ・メディアから離れると、今自分は何をすべきか、何をしたいかが見えてくるように思います。
- ・これを機会に、以後ずっと行う約束を決めました。改善した方がよいことなど、これからも家族で話し合っていきたいと思います。このおかげで、家族で話し合う機会が増えました。

この活動を契機にして、家庭生活について考えてみようとしたり、意識して家族が向き合おうとしたりする家庭が増えてきたことは、大きな成果だと考えている。

課題としては、こうした家庭が限定されていることである。本校では、押しつけでは自分のものにならないという立場から、チャレンジしようという形をとっている。今後どうやってこの活動の輪を広げていくか、さらに検討していきたい。